

事業名称	オリヒメジプロジェクト～次のパイロットは君だ～
団体名・代表者	障害者差別解消法ネットワーク・代表 草津 良
協働の相手方	障害福祉課、総合福祉会館

目的	分身ロボット「OriHime」を用いて、身体的、物理的、社会的、様々な理由で、社会参加や外出における障害を抱えている方を対象に各種支援を行い、孤独の解消を推進する。 また体験会や報告会を行うことで、認知度の向上とともに今後の運用イメージを共有し、姫路市における孤独や障害支援の新たな選択肢を提案。さらなる支援の発展へとつなげる。
内容	令和4年度7月より「OriHime」をレンタルし、就労支援、外出支援を体験してくれる事業団体を公募。約1年間を通して支援を行い、その成果を2月の報告会イベントにて集約する。 また各種イベントにて体験ブースを設置し、一般の方々にも「OriHime」と触れ合っていたいただき、周知活動にも取り組んでいく。
事業経過	7件の事業に対して支援を体験してもらい、20人以上のパイロットに体験していただく。3件のイベントにて一般体験も実施。目標通りに稼働し、多くの感謝の声や意見をいただいた。報告会では、「いつきりハビリテーション」「書写養護学校」にも協力いただき、様々な興味深い成果を発表し、OriHimeの可能性を伝える事業として十分な目的を達成。
事業の効果	OriHimeを体験した事業者より、感謝とともに、継続しての運用も検討したいといった声をいただき、「OriHime」の需要を検討する点では十分な手応えを得る。また報告会でも参考になる発表や、参加者の質問等あり、改善点や課題についても整理。OriHimeの開発元である「オリィ研究所」とも情報を共有することで、より実用的で様々なケースに対応した「OriHime」開発や活用についても期待を持てる結果となった。
今後の展望	十分な成果を得たので、本プロジェクトで明らかになった課題点などを整理し、さらなる可能性を広げていく。 また身体労働を可能とする「OriHime-D」を活用した本格的な就労体験の導入なども視野に入れて実施検討を行う。以上のことは今後の予算や協力団体などの状況を整理しながら、柔軟に対応していく。

【実施団体の事業総括・感想等】

実際に運用を行ってみると、多くの可能性も実感するとともに、主に OriHime の機能に対して問題点も提起されている。(Wi-Fi 接続の不安定さ、操作性の問題など。) 障害、孤独の解消を目的として活動する中では、それら可能性と問題点にしっかり目を向けながら、あくまで実用的な運用を追求すべきだと感じた。今回はそれらの検討をするのに十分な情報/経験と意見を得たことが大きな成果だと思い、今後の判断材料として十分な活用を行っていきたい。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

(障害福祉課)
分身ロボット「OriHime」を使用した本事業は、様々な理由により外出が困難となり、あることが「できない」と諦めるしかなかった方が、実際に「OriHime」を活用することで、買い物に行った、修学旅行に行った、就労体験した等、「できる」体験をしたことの価値は非常に大きいと感じます。今回明らかになった課題の解決を図り、今後の実用的な活用や新たな可能性を広げる事業に向けて取り組んでいただきたいと思います。

(総合福祉会館)
先駆的であるが高価な機器である OriHime の実証実験を、民間のネットワークを活用して実施できた点で、協働の意義が大きかったと考えている。
協働事業を通して、幅広い視点から OriHime の効果や課題を検証することができ、障害者等の社会参加について考える良い機会になった。